

長野県図書館協会
デジタル版 小中学校図書館部会だより
第145号 (平成28年度)

第66回長野県図書館大会を終えて

小中学校図書館部会 塩筑支部
支部長 赤津 勝広

11月12日(土)に第66回長野県図書館大会が、塩尻市で開催されました。県下各地より大勢の皆様に参加していただき、大会を盛り上げていただきました。ありがとうございました。

本年度は、午前の開会式から講演会までをレザンホール大ホールを会場として実施いたしました。講演会では「一人ひとりによりそう図書館になるために 広報のコツ 取材のツボ」と題して、猪谷千香さん、鎌倉幸子さんによる対談を企画いたしました。いかがでしたでしょうか。

午後の分科会は、昨年度の小諸大会で工夫改善していただいたことを生かしながら、全13分科会を4つの会場に分けて行いました。小中学校図書館部会では5つの分科会を担当し、第4分科会、第5分科会を、それぞれ司書教諭委員会、学校司書委員会で運営していただき、第6、第7、第8分科会を塩筑支部で運営させていただきました。どの分科会も、提案者の実践発表を受け、グループごとに各校の実践を踏まえた熱心な話し合いがなされていきました。また、終始和やかな雰囲気の中で分科会が進みました。参加していただいた皆様にとって、実りある一日となったでしょうか。



本大会では、分科会会場への移動をできるだけスムーズにするために、午後の会場をレザンホールから比較的近くて、歩いて移動できる市総合文化センター、塩尻西小学校、えんぱーくに設置しました。当日は天候にも恵まれ、分科会への移動はスムーズにできたのではないかと思います。

しかし、分科会会場の広さや、発表での機器の接続について課題も残りました。

最後に、本大会並びに各分科会を支えていただきました助言者の先生はじめ、司会者、提案者、記録者の先生方、またグループごとの司会者、記録者の先生方、そして参加していただいたすべての皆様はこの場をお借りして感謝申し上げます。

第66回 長野県図書館大会に参加して

麻績村立麻績小学校 新海 知子

11月12日、塩尻市において「一人ひとりによりそう図書館になろう～生きる力を育み、確かな暮らしを支える図書館のあり方を考える～」をテーマに、今年の長野県図書館大会が開催されました。

私が県図書館大会に参加するのは、これが3回目です。小規模校で学校司書を務める私は、司書教諭がいたならばどのような連携ができるのだろうか……そんな期待をこめて過去2回の分科会を選択してきました。しかし、司書教諭と学校司書それぞれのすばらしい実践報告には出会えたものの、「両者の連携」という観点からみると期待はずれのものでした。そして「今年こそは」の思いを込めて第5分科会「司書の立場からの授業支援」を選択しました。仲介役の司書教諭がいない学校で、学級担任から期待される学校図書館、頼りにされる学校司書になるための手がかりを得たいとの思いからです。

分科会の冒頭では、NPO上田図書館倶楽部の西入幸代先生から「学校図書館法改正と長野県図書館協会の取り組み」と題したお話がありました。私が最も関心をもったのは、「これからの学校図書館の整備充実について（報告）」の中の、「4. 学校司書の資格・養成の在り方について」です。

私自身のことを振り返ってみると、司書資格取得のカリキュラムの中に、学校司書という職務に必要な専門的・技術的な知識を身につける十分な機会はありませんでした。学校職員の一員として授業や他の教育活動にもかかわることの多い学校司書には、それにふさわしい専門科目があつて当然ではないのかと常々感じていました。今後、学校司書養成のためのモデルカリキュラムが導入されることになり、高い専門性をもった学校司書が配置されるようになれば、学校図書館はもっと機能を果たせるようになるだろうし、学校司書の雇用面での安定にもつながっていくのではないかと……、そのような期待をもってこの話をうかがいました。

後半ではレポートの発表があり、中でも赤穂南小学校の米山篤美先生の実践はたいへん参考になりました。先生自作の学年別年間指導計画は、全学年・全教科に行事等を加えた一年間の計画表に、学校司書が関わることのできる実践を重ね合わせたものです。授業内容や行事に関連づけた読み聞かせやブックトークのリストには多数の書名が載っており、明日からの実践にすぐに役立つすばらしい資料です。実は年度当初、私もこのような計画表作りを思い立ち実際に着手したものの、国語科の教科書内容を把握する途中で挫折してしまいました。今回紹介

された米山先生の資料、他の先生方の実践を参考にしながら、来年度はまずは手始めに「国語科＋学校行事」をベースにしたブックトーク・読み聞かせの計画を作りたいと考えています。

限られた時間ではあるもののグループ内で意見交換もでき、私にとってはたいへん有意義な機会となりました。運営に携われた方々に深く感謝申し上げます。



グループ討議のようす。発表についての感想を出し合い、意見交換をしました。

地区学校図書館教育研究会から

北信地区

10月27日 須坂市立井上小学校 須坂市立墨坂中学校

「北信地区 学校図書館教育研究会を終えて」

上高井支部代表 須坂市立井上小学校 宮坂ゆかり

平成28年度「北信地区学校図書館教育研究会」は、10月27日（木）午後、須坂市立墨坂中学校及び井上小学校を会場として以下の通り開催されました。充実した研修の時間となりました。

1 研究テーマ「生きる力を育むこれからの図書館教育のあり方」

(1) 上高井支部テーマ「学校図書館を活用しながら、自ら課題を追究し、考え、交流する子どもをめざして」

2 公開授業・授業研究会

	授業学年・授業者	単 元 名	助 言 者
井上 小学校	小学校1年 小林裕美教諭	「じどう車くらべ」 国語科	北信教育事務所 指導主事 宮島 卓朗 先生
墨坂 中学校	中学校2年 北原大介教諭	「おすすめの本のCMを作ろう」 技術科・国語科	長野県総合教育センター 専門主事 林 健司 先生

3 講演会 講師 塩谷 京子 先生(放送大学客員准教授/関西大学非常勤講師)

演題 「学校図書館の活性化 ～探究型学習を支える学校図書館をめざして～」

北信の各地区より学級・教科担任の先生方をはじめ、学校司書の皆さんや教育委員会関係の皆様など、小学校に38名、中学校に34名、講演会に97名の参加をいただきました。公開授業については、「本と学習とを近づけようとする試み(学習センターとしての機能を活かした実践)の積み重ねにより本を信頼し、本が大好きな子どもを育てているところが素晴らしいと思いました。(小学校)」



「国語科で相手意識・目的意識を明確に持たせた伝えたい内容(本のCM)を持たせた上での技術科の情報処理に関わる学習。教科横断的な単元構成が大変参考になった。(中学)」などの感想をいただきました。北信ブロックの研修会を兼ねた講演会については、「授業で図書館を利用するためには「ねらい」がはっきりして、そのねらいに図書館が有効であるかを見極めてということが大切であることが具体的な例を示して教えていただいた。」「来て良かった。早く学校に戻って仕事がしたくなった。」などの声を寄せていただきました。

北信地区学校図書館教育研究会に参加して

須坂市立日滝小学校 馬場 綾子

本校で図書館教育に携わって3年目となります。本好きな子どもが見られる反面、なかなか進んで図書館に足が向かないという子どもの姿も見られます。より多くの子ども達に本に親しんでもらうためにはどうしたらよいか、司書の先生や図書委員会の子供達と一緒に取り組んでいるところです。

今回、井上小学校にて一年生の授業を見させていただきました。子ども達の実態に合わせて導入場面が工夫されていたこと、「自動車かるたをつくってみんなでやろう」という単元のゴールが共通認識されていたこと等により、子ども達はわくわく感を持って大変意欲的に学習に取り組んでいました。本は様々なことをわたしたちに教えてくれますが、たくさんの情報の中から、必要な情報をいかに選択するかはなかなか難しいことです。だからこそ、今回の授業のように「本で調べる」ことの楽しさを体感する学習経験を積み重ねていくことが大切であるということを改めて学ばせていただきました。

また講演会では、塩谷京子先生より、学校図書館の活性化についてのお話を伺いました。中学校全国学力テストの問題にも絡ませながら、探求型学習を支える学校図書館にしていくために大事にしたいこと具体的に教えていただきました。日々の自分を振り返りながら切実感を持ってお聴きしました。今回学ばせていただいたことを生かし、今後の実践につなげていきたいと思えます。

北信地区学校図書館教育研究会に参加して

須坂市立須坂小学校 岡宮 美佳

この研究会に参加させていただいて思ったことは、司書の先生と連携して図書館教育を充実させていかななくてはならないということです。本校で司書の先生が勤務してくださるのは月曜日と火曜日ですが、協力しあって図書館教育を進めていきたいと思えます。

(1) 公開授業(井上小学校 1年 国語)を参観させていただいて

自動車の図鑑を読んで自動車の「しごと」に合った「つくり」を選び、それをかるたにしていくという授業でした。入学してからまだ半年の1年生が、図鑑を読み、自分が必要としている情報を選んで書いている姿に、これまでの学習の積み重ねを感じました。「かるたを作る」という言語活動が、子どもたちの意識の中にしっかりとあって、意欲的な姿につながっていたと思えました。

(2) 講演会「学校図書館の活性化」(講師 放送大学・塩谷京子先生)

学校図書館を授業でどう活用していくべきなのか、を語る塩谷先生の熱い思いがひしひしと伝わってきました。「学びの場」が拡充し、「問題解決型」や「探究型」の授業が増えている今、「学習センター」としての図書館の位置づけが重要になってくるのだと考えさせられました。

南信地区

11月11日

下條村立下條小学校 下條村立下條中学校

あしたむらんど下條(下條村立図書館)

下條村コスモホール

「南信地区 学校図書館教育研究大会を終えて」

下伊那支部代表 平谷村立平谷小学校 伊東 秀

11月11日(金)下伊那郡下條村を会場として、「学びを広げる、心をはぐくむ学校図書館」を大会テーマとして開催いたしました。当日は、下條小学校・中学校、そして、下條村教育委員会の皆様の

ご尽力により、4分科会を設け、各会場で研究を深めることができました。

下條小学校と中学校の2分科会では、図書館を活用した授業公開と授業研究会を行いました。日常的に読書に親しむとともに、教科学習における調査と発展のための学習センターとしての充実に努めてきた成果が、子どもたちの姿に現れているように思いました。

村立図書館司書の近藤明子さんからは、地域とともにある公共図書館、小中学校との連携の実際について、ボランティアの活動発表などの様子を織り交ぜて、実践発表をしていただきました。また、東京学芸大学附属小金井小学校からお越しいただいた中山美由紀さんからは、学校図書館の授業での活用方法について、様々な実例を挙げて具体的に示していただく事ができました。

分科会終了後、コスモホールに会場を移して、ノートルダム清心女子大学名誉教授・脇明子先生から「読む力は生きる力」というテーマでご講演いただきました。脇先生はそのご著書の中で、我々子どもと関わる現場の人間を、温かく力強く励まし続けてくださっていますが、このご講演でも、読書の意味、手渡したい本について、力強く語りかけていただきました。質のよい読書、質のよい物語を心深く味わう体験が大切であること、読書は子どもたちの「生きる力」を育ててくれることを、改めて認識させていただきました。

本研究会の開催にあたって、物心両面から大変なご支援とご協力を賜りました下條村教育委員会ならびに下條村の皆様に、深く感謝申し上げます。



南信地区学校図書館教育研究大会に参加して

飯田市立高陵中学校 青木 蘭奈

「中学生を主人公にし、その葛藤や成長を題材にしている優れた文学作品が、日本には少ない。」

脇明子さんが講演会で話してくださったことのひとつです。国語科教諭として、司書教諭として、いわゆるライトノベルを手に取り、“読書”をしている生徒の姿をもの寂しく感じていた私には、とても鮮烈なお話でした。自身の不勉強を恥じるばかりですが、「身になる読書」という視点で様々なお話をお聞きし、生徒の姿と重ね合わせていたく納得しました。

下條中学校での宮川先生の授業には、本を手し、その魅力を熱心にクラスの仲間に伝えようとする生徒の姿がありました。自分の選んだ一冊について、仲間への語り方を考え、未知の本のおもしろさが損なわれないよう質問に答え……。本を読みこなしていないとできないことだなと感じました。また、その紹介に耳を傾ける生徒の興味津々といった柔らかな表情も、印象的でした。

この大会に参加させていただいたことで、生徒は本との出会いを楽しみたいと思っていること、本を読み味わう素地をもっていることとを、再確認いたしました。日頃、生徒から、「何かおもしろい本はありませんか。」と質問されることが少なくありません。また、生徒同士でおもしろかった本を薦め合う様子もあります。彼らが豊かな読書生活を送るための第一歩として、すてきな本に出会う方法を考え、実践していきたいと思えます。

部会だよりは長野県図書館協会ホームページでもご覧いただけます。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第145号
発行日 平成28年12月13日
長野市若里1-1-4 県立長野図書館内
長野県図書館協会 小中学校図書館部会 (代表 和田 敦)